

# 令和5年度 第2回 在宅医療×介護連携@つちう Labo 参加者アンケート

- 日 時：令和5年8月17日（木）18時30分～20時30分
- 場 所：土浦市役所2階 男女共同参画センター研修室1・2
- テーマ：実例紹介から学ぶ！退院時の在宅移行支援
- 出席者：54名（アンケート回答者数53名／回答率：98.1%）

## 1. あなたの年齢、職種を教えてください。

【年 齢】

	人数	割合
20代	3	5.7
30代	14	26.4
40代	12	22.6
50代	13	24.5
60代	10	18.9
70代以上	0	0.0
無回答	1	1.9
合計	53	100.0

【職 種】

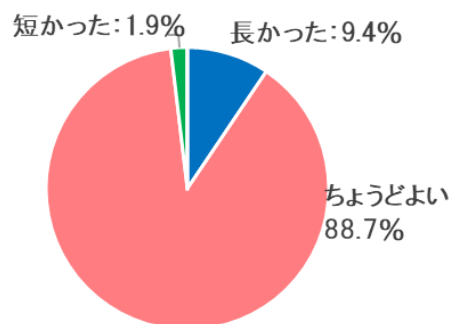
	人数	割合
介護支援専門員	20	37.7
薬剤師	6	11.3
看護師	5	9.4
介護職	4	7.5
社会福祉士	3	5.7
生活相談員	2	3.8
理学療法士	2	3.8
保健師	2	3.8
精神保健福祉士	2	3.8
事務職	2	3.8
訪問介護	1	1.9
作業療法士	1	1.9
医師	1	1.9
歯科医師	1	1.9
ソーシャルワーカー	1	1.9
合計	53	100.0

## 2. 本日の研修会について

### （1）講演についてお伺いいたします

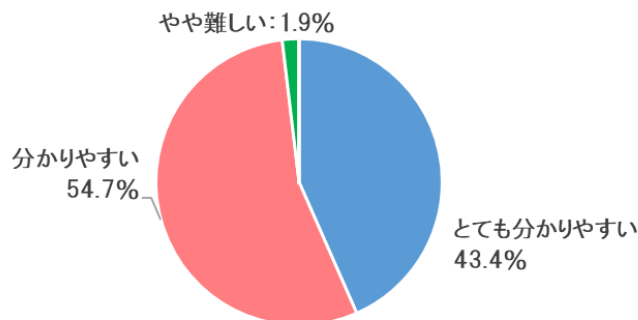
#### ①講演の時間は、いかがでしたか？

	人数	割合
長かった	5	9.4
ちょうどよい	47	88.7
短かった	1	1.9
無回答	0	0.0
合計	53	100.0



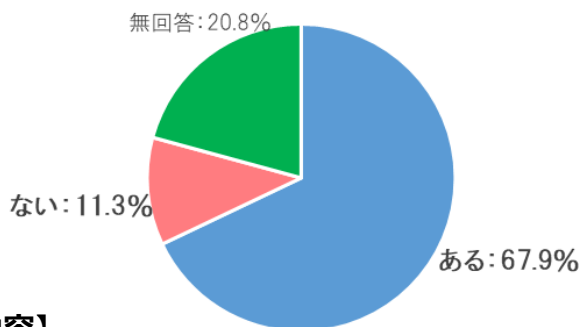
#### ②講演の内容は、いかがでしたか？

	人数	割合
とてもわかりやすい	23	43.4
わかりやすい	29	54.7
やや難しい	1	1.9
難しい	0	0.0
無回答	0	0.0
合計	53	100.0



### ③本日の講演内容で、今後取り組もうと思った内容がありますか？

	人数	割合
ある	36	67.9
ない	6	11.3
無回答	11	20.8
合計	53	100.0



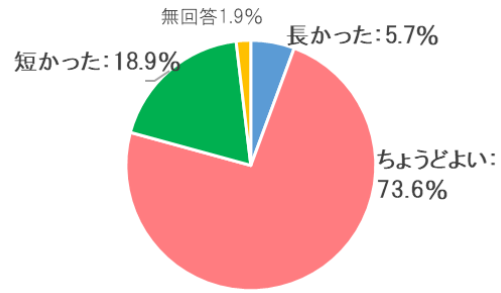
#### 【「ある」と回答した方：具体的な内容】

- ・退院カンファレンスへの積極的参加
- ・スムーズな退院を実現するためにニーズをしっかりと把握し、関係者同士のコミュニケーションを大事にしたいと思った。
- ・情報共有や連携強化に努めること
- ・患者様に対する疾病の理解度の把握、教育
- ・情報提供や退院前訪問など
- ・入退院時の医療との連携
- ・早期に病院へ情報提供
- ・服薬管理について、より正確に服薬できるよう病院と連携を取りながら支援したいと思います。
- ・積極的に連絡・調整していこうという気持ちが強くなった。
- ・退院時カンファレンス等積極的に参加したいと思った。
- ・退院時の薬剤調整のための設備購入
- ・病院・家族等の連携を図る際は、家族の介護力や思いをしっかりと見極められるようになりたい。
- ・対象者の詳細なアセスメント
- ・多職種協働 チームワークが大切 ネットワークづくり
- ・調剤薬局との連携
- ・「住」を主に提供している立場として。「住まい」として利用者・家族の方向性を細部に取り組み、介護や他職種・他事業所との連携を図る。
- ・身寄りのない方の支援
- ・連携の取り方
- ・退院前カンファレンスは既に行っているが、内容なども配慮したい。
- ・利用者、患者へ救急医療情報キットを勧めていこうと考えました。救急搬送先病院の負担軽減につながると考えます。
- ・訪問薬剤指導でどのようなことができるか、他の職種の方にわかっていただく。
- ・情報の共有化
- ・連携の強化
- ・退院時カンファレンス、参加したいと思えました。
- ・ぜひ入退院時支援にかかわっていきたい。
- ・退院カンファレンス
- ・救急搬送時の本人・親族情報シートの運用
- ・退院後のフォロー（訪問やカンファレンス）の必要性を取り入れられたら…。
- ・本人に対し多角的な視点で連携していくとあり、実際に関わる際の新たな視点にしていきたい。

(2) 意見交換会について、お伺いたします。

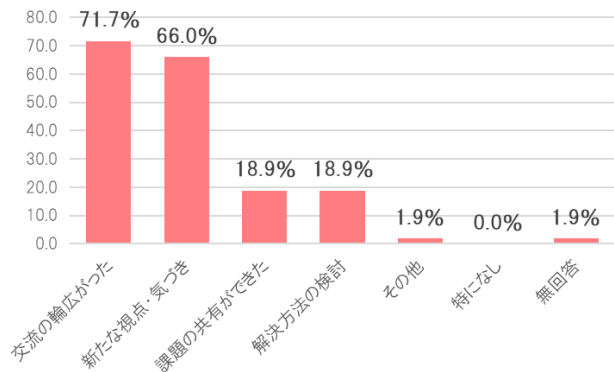
①意見交換会の時間は、いかがでしたか？

	人数	割合
長かった	3	5.7
ちょうどよい	39	73.6
短かった	10	18.9
無回答	1	1.9
合計	53	100.0



②本日の意見交換会では、どのような成果が得られましたか？

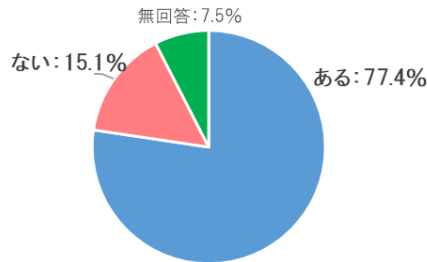
	人数	割合
交流の輪広がった	38	71.7
新たな視点・気づき	35	66.0
課題の共有ができた	10	18.9
解決方法の検討	10	18.9
その他	1	1.9
特になし	0	0.0
無回答	1	1.9



その他：退院調整に必要な情報・知りたい情報などをケアマネから聞けた

3 日頃の業務の中で、入退院時支援に携わることはありますか？

	人数	割合
ある	41	77.4
ない	8	15.1
無回答	4	7.5
合計	53	100.0



【円滑な支援のために、実践していること その1】

- ・ご家族面接 退院前カンファレンス
- ・定期的な連絡（情報の共有）
- ・ご本人、家族の気持ちに寄り添っていきたい。
- ・現状の細かい点の把握とその後の生活を想像すること
- ・全部抱え込まない事
- ・入院時情報連携 退院時カンファレンス
- ・退院前カンファレンス ケアマネ等との連絡・調整（訪問指導・福祉用具の提案など）
- ・カンファレンスへの参加 家族から意向確認
- ・密にコミュニケーションをとること
- ・タイミング
- ・コミュニケーションを積極的にとる
- ・MSW と連絡を取りあい、相談を進めていく。

## 【円滑な支援のために、実践していること その2】

- ・時間をかけて信頼関係を築く
- ・入院時の休業の介入
- ・本人、家族の思いを聞き取る事。退院後の想像をしていただく。
- ・入院時情報連携、三日以内に提出する。入院前の状態を早急に病院に伝える。入院前—入院中—退院後の状態を把握すべきと思っている。
- ・できるだけ参加する。発言をする。
- ・現場の介護職員として、情報の確認、共有を行う。
- ・MSW との情報共有。顔なじみの関係づくり
- ・まだ面会できないので家族に情報提供する頻度や内容
- ・医療的側面からだけでなく、もともとの生活を知ること、家族力・生活力がわかると考えている。
- ・早めに情報をいただく
- ・スピードと丁寧さに気を付けている
- ・ACP の定期的な確認
- ・退院前カンファレンス参加の依頼があれば調整をかけ必ず参加
- ・本人、家族の意向を聞いて、在宅に向けてケアマネと連携を図り退院調整をしている。
- ・多職種間での情報共有を密に行う
- ・本人、家族の意向のもと病院を受診する。
- ・多職種の連携
- ・親族への支援の必要性の説明。親族で意向を合わせてもらうこと。
- ・ENT 前カンファレンスにて多職種共有できるように心がけている
- ・入院時の情報提供
- ・退院カンファレンスの依頼（利用者、家族の安心につながる）。MSW と速いアポ。

## 【課題に感じていること】

- ・現状の細かい点の把握とその後の生活を想像することがきちんとできるかという点
- ・いかにして足並みをそろえていくか
- ・コロナで一時、顔を合わせられなかった
- ・多職種連携 医療との情報共有
- ・必要な情報提供が行われているのか、退院してからの生活がどうかなど知ることができずにいること
- ・病院によって情報の共有ができないことがある
- ・退院前カンファレンスのついて（実施）、病院によって違いがある
- ・退院時、本人同席なしのカンファレンスが多く、本人には退院後に会うケースが多い。情報のズレを感じる。
- ・本人が病院受診に同意しないこと
- ・外国人の方の支援（言語・風習・宗教）
- ・一度に何件も依頼がくると優先順位に迷うことがある
- ・介護保険サービス以外、支払い等の支援まで相談される
- ・本人と家族の意見の違い・カンファレンスが開かれなことがある。
- ・カンファレンスが機能していない。
- ・院内の連携 患者家族と患者の間で挟まれる
- ・フィードバックが難しい。良し悪しで評価しきれないため伝えにくい。在宅医療だったから“何が”よかったのか抽出していきたい。
- ・入手困難な薬がある場合
- ・情報入手が遅い場合
- ・連携を密にできているのか不安
- ・家族と医療職種との意見のすり合わせ
- ・家族がいない、介護未申請の人だとスムーズな退院調整ができず、入院期間が伸びていること
- ・家族がいても無関心であったり、関係を持つとしないこと
- ・高齢者の孤立化から、病院やケアマネが対応に困っているのでは？
- ・参加できない職種があると共有が難しくなってしまう
- ・病院によっては、何の連絡もなく退院してしまう事がある（入院時の情報交換をしていても）。どうすれば連携がうまくできるか？
- ・本人と家族の意向が異なる。キーパーソン不在、身寄りがない方の支援など。

#### 4 今後、どのようなテーマの研修会や意見交換会を行ってみたいですか？

- ・在宅緩和
- ・困難ケースの関わり方 身寄りのない利用者のケース
- ・身元引受
- ・人生会議をどのような状況で行ったのか
- ・退院時に施設を検討している際に、施設に入所するための判断基準が難しい
- ・看取りだけでなく死生観についての研修
- ・在宅医療の始め方
- ・嚥下・口腔内のケアについて歯科医師の話
- ・今までやったテーマをやるのも大切と思います。時間が経つと状況が変わって意味があると思います。
- ・介護士における介護の手法やコミュニケーションがどうあるべきか？自施設のルールや介護士主体にならない介護とは？その環境を作るといったものがあれば受講してみたい
- ・認知症 看取り
- ・介護のお金。実際に皆さんいくらかかっているか興味があります。
- ・事例紹介をたくさん聞きたい
- ・交流会の時間を増やす
- ・保証人がいない人の対応について
- ・「図解」による会議の進行方法。(連携のために)
- ・身寄りのない人（キーパーソン、保証人、身元引き受けなどいない人）への支援、かわりについて
- ・地域課題の発見、共有

#### 5 最後に、お気づきの点や、ご感想などありましたら、自由にご記載ください。

- ・今回の研修、とてもよかった。
- ・大変勉強になりました。明日以降の業務に生かしたいと思います。
- ・毎回よいテーマで興味深いです。ありがとうございます。
- ・多（他）職種の方と意見交換するのは大変貴重で勉強になります。次回も参加したいです。
- ・発表するのは辛いです。得意な方にやってもらいたいです。
- ・あっという間の時間でした。楽しい進行でよかったです。ありがとうございました。
- ・進行が良かった。
- ・普段関わらない部分の支援内容を学ぶことができました。ありがとうございました。